

学食ビフォーアフター～学食をよりよくするには～

班員：西沢昂 北田春華 立場かおる 星野奈月

担当教員：鈴木勉 TA：山本克己

①背景

筑波研究学園都市は、開発後 30 年以上を経て成熟期を迎えている。筑波大学はその中心施設であり、日本でも有数規模のキャンパスを有している。しかしキャンパスは一時期に集中して整備されたもので近年機能低下が進行しており、経年 25 年以上のものが全体の 48%を占めている。これらの一斉に老朽化を迎えたキャンパスの、計画的な改修整備と維持保全が緊急の課題となっている。また、老朽化の問題だけでなく時代の変化への不適合などの課題もあり、これらの課題を解決することはスマートなキャンパスを目指すためには不可欠なことである。そこで私たちは、キャンパスに関する問題について議論することから始めた。

②目的の設定

上記の議論の結果、キャンパスの課題として主に交通と食堂の問題が浮かび上がった。

●交通

- ・ハンプ
- ・シェアドスペース
- ・ペDESTリアンデッキの混雑
- ・バスの遅延

●食堂

- ・ピーク時の混雑
- ・デザイン性の欠如
- ・清潔感の欠如

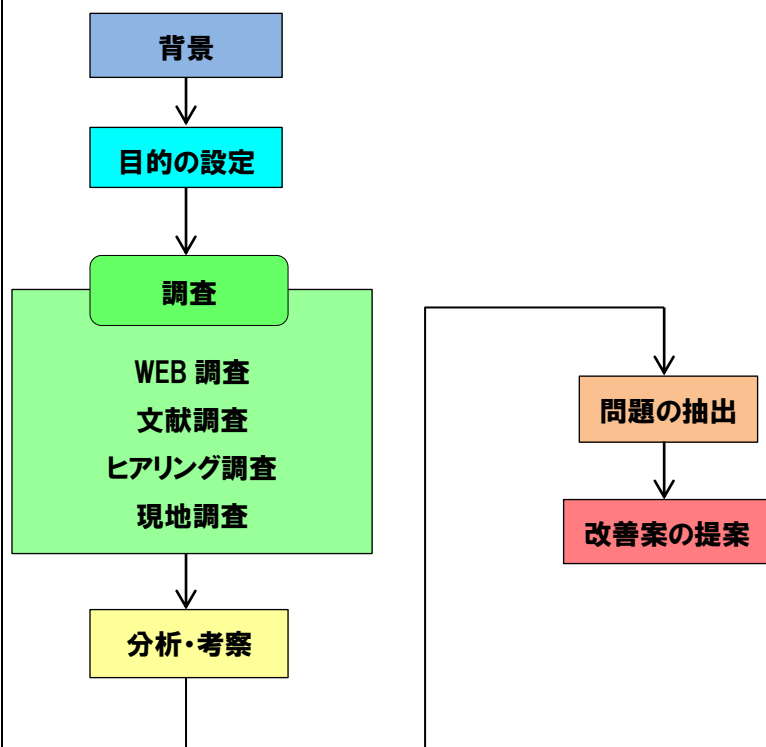
実際に平成 20 年度、平成 22 年度の学生生活実態調査を見ても交通や食堂に関する項目は、整備・充実してほしい施設の上位に上がっている。

このように交通の問題、食堂の問題ともに重要な課題であるが、とりわけ食堂は平成 20 年度の学生生活

実態調査で整備、充実してほしいという要望を持つ学生が 40%以上で最も高く、平成 22 年度の生活実態調査でも他の福利厚生施設に比べて不満度が高い。

食堂は今年度に入り、運営業者が変わるなど確かに大きな変化が見られるが、3 食の混雑など改善の余地が多く残っている。このように食堂は改善の必要性が高く、また昼食の時間帯以外の利用など、「学生や職員の食事の場」として以外の使われ方により、よいキャンパスにつながる場所でもある。よってテーマを食堂に絞り、問題を解消するだけでなく、よりよい環境の実現を図る。

③調査フロー



※図 1

④調査

●WEB 調査

○既存研究

『学生食堂の経済・経営分析 法政大学』

後藤潤也 村井峻 横山愛

- ・学生食堂の問題解消を目的にアンケート調査による分析、解決案の提案を行った論文。「テイクアウトの実施」「デッドスペースの有効利用」「移動販売車や屋上を飲食スペースとして開放」「時間指定一品追加策」の実施を提案している。

最初の 3 つの提案は学生食事の満足度を高めつつキャンパス内の敷地の有効活用が期待できる。

昼食ピーク時を避ける対策として一品追加策にも混雑の解消が期待できることがわかる。

しかしどの提案も費用問題などのリスクが伴うため慎重な検討が必要である。

『中央大学後楽園キャンパス 3 号館学生食堂の最適窓口配置の評価』 水本剛四郎

- ・学食における窓口配置と座席の容量に注目し、数学的な観点から考察している。注文窓口 4 つ、レジ 2 つの学食の待ち行列ネットワークを作成する。これをもとにシミュレーションを行い、最適窓口の配置の考案や休み時間内の座席の利用状況を推測している。

この結果最も混雑していた窓口の人気のあるメニューを独立させて、新設窓口を設置することで平均滞在時間を大幅に減少できることが確認できる。また、待ち行列の人数の減少により、利用者が増加した場合の座席の利用状況が推測できる。

『東京工業大学学勢調査結果 2010』

- ・学内食堂に関して学生アンケートから抽出される問題に対して、現状分析から提言という形式でまとめられている。選択式のアンケートではあるが、自由記述の意見も大いに取り上げており、学生の意見を反映している。

また、混雑に関しては前回の調査後、コンビニが設置され解消されたことが挙げられている。

●文献調査

○学生生活実態調査（学群）平成 20 年度

- ・食事の場所についての質問では、昼食を学内の食堂でとる学生の割合は全体の 52.9%に上った。

○学生生活実態調査（学群）平成 22 年度

- ・学内の福利厚生施設に関する満足度についての質問では食堂に不満を抱いている学生の理由

として、「学食としては値段が高い」「各エリアの食堂に差がありすぎる」「一部の狭い食堂は、昼食時の混雑がひどい」が挙げられている。

●ヒアリング調査

○厚生会<4 月 25 日（水）9：00-10：00>

学食の現状やリニューアルの目的、課題などを知るために学食を管轄している厚生会の担当者にヒアリング調査を行った。以下はその調査の結果。

- ・学食の管理は委託した業者が行っている。
- ・学食のメニューや値段の変更は厚生会の承認が必要だが、テーブルやイスの配置は各業者に任されている。
- ・業者の契約は 2 年単位で、厚生会の話し合いによって決定される。
- ・大学会館の食堂や中央図書館のスターバックスは他の食堂、喫茶と異なり学外の人を意識して作られている
- ・平成 20 年度の学生生活実態調査で充実してほしい施設の 1 位に選ばれたことについては、その後特に食堂に対して詳しい調査は行われず、厚生会としては値段が一番の要因だと考えている
- ・1 学食堂のリニューアルは 3 学食堂などの混雑の解消も目的としており、利用者の分散を狙ったものである。
- ・場所によって集客力にバラつきがあり、業者の努力ではどうしようもない面がある
- ・1 学期は利用者が多いが徐々に利用者は減少する。

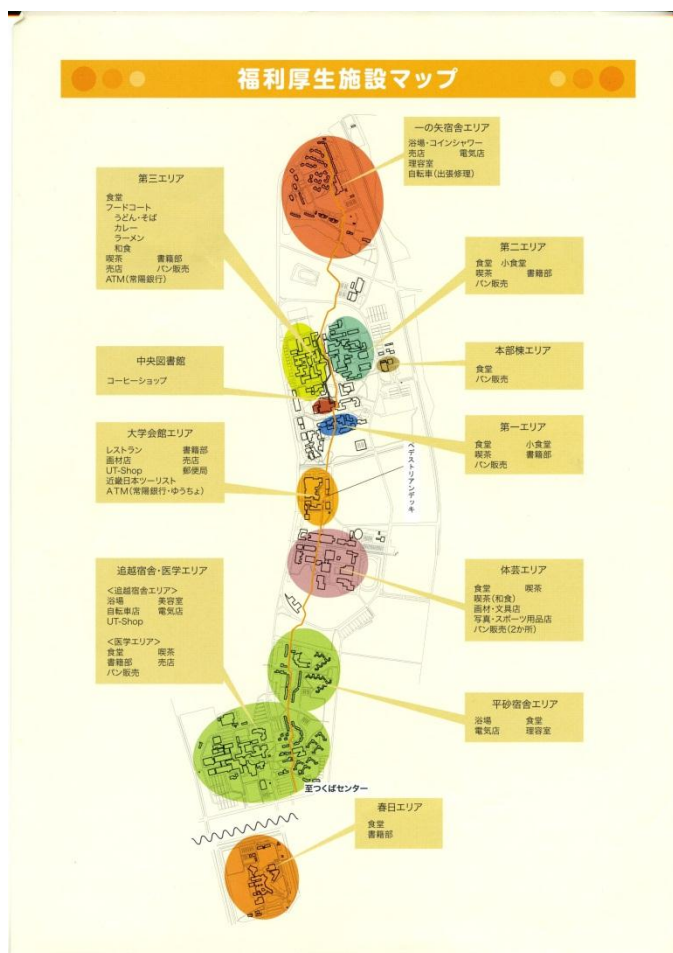
○学内の食堂利用者<4 月 27 日（金）14：00-

16：00>

4 限の時間帯に食堂に行き、昼休みの時間帯以外の学食の利用のされ方などについて調査を行った。

◇具体的に調査を行った項目

- ・テーブルとイスの数
- ・学食にいた人数
- ・利用目的
- ・その場所を選んだ理由
- ・その他気づいたこと



※引用 筑波大学福祉厚生施設紹介誌 ういーる

◇調査の結果や分かったこと

- ・利用目的は授業の合間の暇つぶし、勉強、雑談が多かった。
- ・その場所を選んだ理由は授業の合間の暇つぶし目的の人は前後の授業の場所に近いこと、勉強目的での利用の人は少しうるさい方が集中できるなどを挙げた。またお店の人の目が気にならない、他の場所を知らないなどの理由も挙げた。
- ・ガス、光熱費により赤字になってしまうためお昼の時間帯以外は営業できない学食もある。

●現地調査

○学内の食堂<4月17日(火)11:25->

4月13日(金)の授業において5限の時間帯に筑波大学キャンパス内の学食を回った際に、最も関心を持った体芸食堂について調査を行った。

◇関心を持った点

- ・学生数に対して規模が小さい。
- ・1、2階はきれいだったが3階はテラスを含めあまり使われていない印象を受ける。昼食ピーク時の客の量はどの程度のものなのか。

◇分かったこと

- ・1、2階の店舗は混雑が目立つ一方で、3階の喫茶は空席があった。

○東京大学<5月2日(水)12:00-14:30>

他の国立の総合大学ではどのような学食があるのかについて調べた。

○東洋大学<5月2日(水)15:00-16:00>

どのような食堂があるのか参考にするために私立の大学である東洋大学 白山キャンパスの6号館地下1階学生食堂の調査を行った。

◇行った学食

- ・银杏メトロ食堂
- ・中央食堂
- ・第二食堂
- ・地下一階学生食堂(東洋大学)

◇調べた点

- ・テーブルやイスの数
- ・学食のシステム
- ・空間の使われ方
- ・その他気づいた点

◇調査の結果や分かったこと

○東京大学

- ・筑波大学と同様に昼食時の混雑が問題となっている。
- ・3つとも生協が運営する食堂だったが、どこもシステムやレイアウトが異なる。
- ・昼食のピーク時の混雑緩和のため時間をずらしての利用を呼びかける貼り紙があった。
- ・ピーク時は食事目的以外の利用は禁止という掲示がある。
- ・カウンター席が多い印象を受けた。
- ・キャンパス内に移動販売の車が来ていた。
- ・银杏メトロ食堂は勉強などの利用もしやすいつくりになっていた。(お店の人から席が見えづらい、カウンター席が多い、パーテーションで区切られているなど)

○東洋大学

- ・昼食の場所としてだけではなく休憩のスペースと

しても利用されており、3時にも関わらず多くの学生がいた。

- ・注文する場所と返却の場所が分かれていた。
- ・1300席あり、テーブルの間もゆとりがあり広々していた。

⑤考察・問題の抽出

各調査の考察を以下に述べる。

●学食の問題点

- ・昼食時の混雑
- ・学食にしては値段が高い
- ・エリアごとの格差
- ・デザインやレイアウト
- ・清掃の不徹底
- ・一部の食堂の利用時間の短さ

●学食の可能性

- ・食事目的以外の利用
- ・魅力的な空間の創造
- ・一般客への宣伝、開放

上記のように学食の問題は数多くあるとともに、可能性も秘めているため、問題を解決するだけでなく、よりよくすることもできる。

⑥今後の方針

●学食の不満の原因について

厚生会の担当者のヒアリング調査の結果では、不満の原因は値段の高さがもっとも大きいと考えられていたが、調査がされたわけではないので、アンケート調査を実施し利用者の不満の原因を明確にする。

●学食の可能性

学食の空間を食事の場としてだけでなく、勉強や憩いの場として利用できるようにするための工夫、また掲示板など他の機能との連携などの可能性を探っていく。

また魅力的な空間を作ることにより、学生だけでなく学外の一般の人に対しても利用してもらえるようにし、大学と地域の結びつきを深める一端となる学食を目指す。また多くの学生がかかわる学食が魅力的な空間となることは、学生の生活の質の向上にもつながる。

◇提案

- ・デッドスペースの活用
- ・テイクアウトの実施
- ・移動販売車の利用
- ・BGMを流す
- ・時間差利用を促したり席取りを禁止したりする掲示
- ・カウンターの設置
- ・混雑していない学食の宣伝
- ・学外の一般客への宣伝
- ・それぞれのテーブルにダスターの設置

以上は調査を参考にした提案である。今後それぞれの実現可能性について議論したうえで、実験・分析をしていく。

⑦参考文献

- ・学生食堂の経済・経営分析 法政大学
http://hirata-seminar.ws.hosei.ac.jp/seminar/2008_1.pdf
 - ・中央大学後楽園キャンパス3号館学生食堂の最適窓口配置の評価
<http://www.ise.chuo-u.ac.jp/ise-labs/taguchi-lab/pdf/a00d8101002.pdf>
 - ・東京工業大学学勢調査結果 2010
<http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2010/seikyo.html>
 - ・筑波大学キャンパスリニューアル計画
<http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~shisetsu/05cr.html>
 - ・東大生協 HP
<http://www.utcoop.or.jp>
 - ・大学学食ランキング
<http://www.nikkei.com/news/ranking/article/g=96958A96889DE1E7E7EAE3E3E2E3E6E3E2E0E2E3E385E2E3E2E2E2>
<http://gakushoku.info/?p=1077>
<http://univlog.jugem.jp/?eid=2221>
 - ・筑波大学キャンパス・施設紹介
<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/campus.html>
- 最終閲覧日 5月15日
- ・平成22年度 学生生活実態調査(学群)
 - ・平成20年度 学生生活実態調査(学群)